

令和2年11月27日
 港湾空港局クルーズ・交流課

日本のクルーズ船「ぱしふいっく びいなす」の門司港への寄港について

日本のクルーズ船「ぱしふいっく びいなす」が、12月9日（水）に門司港へ寄港します。
 今回のクルーズは、日本に住んでいる人を対象とした「国内クルーズ」です。

※ 同船は、11月30日（月）にも操船訓練等の一環として、乗船客なしで門司港に寄港します。

1 寄港日 令和2年12月9日（水）
 入港 6:00 出港 20:00

2 場 所 門司2号岸壁
 （関門海峡ミュージアム前）

3 行 程 神戸～**門司**～神戸
 ※ 乗船客は、小倉城、旧サッポロビール醸造棟、
 下関市内などを巡るツアーを予定



※写真提供：日本クルーズ客船株式会社

4 国内クルーズの運航再開について
 国内クルーズは10月25日（日）から再開されました。
 日本のクルーズ船の運航再開に当たっては、業界団体が
 策定し、国が監修した感染症対策に関するガイドライン等
 をクルーズ船社が遵守することが条件となっています。
 具体的には、クルーズ船社は各種ガイドラインを踏まえ
 て、乗客を定員の半分以下にして三密を回避した形で運航
 するほか、独自の取り組みとして乗客に対して乗船前に
PCR検査を実施するなど、十分な感染症対策を取った
うえでの再開となります。

| ぱしふいっく びいなす データ | |
|-----------------|--------------|
| 就航 | 1998年4月 |
| 総トン数 | 26,594GT |
| 全長 | 183.4m |
| 全幅 | 25m |
| 客室数 | 238室 |
| 乗客定員 | 620名 |
| 運航会社 | 日本クルーズ客船株式会社 |

5 取材に当たっての留意事項

- (1) 今回、船内見学等の取材はできませんので、予めご了承ください。
- (2) 取材を希望される場合は、制限区域入場手続きのため、**別紙**にて事前にご連絡をお願いします。
- (3) 新型コロナウイルス感染拡大状況等により、同船の寄港は変更・中止になる可能性があります。

【問い合わせ先】
 （北九州市 港湾空港局クルーズ・交流課）
 電話：093-321-5939 大浦・津田
 （日本クルーズ客船（株））
 電話：06-6347-7521 門永・嶽尾

（船社が取り組む安全対策）

国土交通省が監修した「外航クルーズ客船事業者の新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」を遵守しながら、船内の衛生管理を徹底し、万が一船内で感染者が発生した場合でも濃厚接触者は原則として同室者のみに限定され、クラスターを発生させないことを目的とした各種対策をとっています。

- 乗客定員やレストラン等船内施設の座席数を従来の半分に減らすなど、船内の徹底した衛生管理（船内でのマスク着用や手指消毒を含む）により、同室者以外の濃厚接触者を発生させない取組を実施
- 当面の間、乗客の乗船前PCR検査や健康質問票の確認を実施
- 船内各所にサーモグラフィーを設置し、体調不良者を早期に把握
- 体調不良者が出た時点で船内イベントと船内施設の使用を中止し、本人と濃厚接触者は船内で隔離（それ以外の乗客は自室待機）
- 十分な数の隔離室等の確保、医療従事者と他の乗組員との動線分離
- 船内にコロナ検査機器を導入し、航海中でも船医によるコロナ検査を実施
- 陽性者が出た場合、クルーズを中止（最終下船港へ向かう）
- 船内の換気設備には、10分に1回外気と入れ替わるなどの対策を導入
- 日本海事協会の「バイオセーフティマネジメントシステム」の認証を取得
- 乗組員の教育・訓練の徹底 など

（北九州港が取り組む安全対策）

北九州港では、港湾管理者向けのガイドラインである「クルーズ客船が寄港する旅客ターミナル等における感染拡大予防ガイドライン」を遵守し、以下の安全対策を講じながら、クルーズ船を受け入れます。

- 岸壁での三密（密閉、密集、密接）発生防止
- 受入従事者のマスク着用、手指消毒等の徹底
- 受入従事者の健康管理の徹底（定期的な体温測定、体調不良者は従事させないなど）
- マスク、消毒液等の必要な物品を準備
- 岸壁における急病人等の搬送動線を予めクルーズ船社と協議
- 緊急事態に備え、クルーズ船社や保健所等の関係者と事前に連絡体制を構築 など